

スズメバチ警戒を

鹿県内の駆除相談夏以降増加

刺激せず後ずさり 刺されたら即受診



駆除業者が撤去作業中のキイロスズメバチの巣（鹿児島県ペストコントロール協会提供）

鹿児島県内で、スズメバチの駆除依頼が増えている。8月下旬～11月は翌年の女王蜂候補を育てるため防衛意識が強く、巣に近づくと刺される危険性が高い。刺されると死亡するケースもあり、専門家は「とにかく巣に近づかないように」と注意を呼びかけている。

害虫駆除18業者でつくる県ペストコントロール協会には本年度、ハチに関する相談が19日までに33件寄せられ、昨年度の18件を上回った。スズメバチに関する相談は7月以降増え、永田公宏会長（42）は「自分で撤去しようとして刺された後に相談する人もいる。巣を見つけたら近づかないのが一番」という。

スズメバチは春、越冬した女王蜂が雨を避けられる生け垣や土中などに巣作りを始める。中でもキイロスズメバチは土管などに作った後、軒下などへ移動させるため、突然巣が出現。夏以降は働き蜂の数が最大となる。

スズメバチは1匹が通り過ぎる程度なら、危害を加えない限り襲ってくる可能性は低い。県立博物館の金井賢一学芸主事（43）は、集団で巣を守る働き蜂の危険性を指摘する。羽音をたて威嚇しながら身の回りを飛んでいる複数のハチを見たら、近くに巣がある可能性が高いという。「慌てず、静かに後ずさりして、その場を離れるように」と冷静な対応を呼びかける。

刺された場合、亡くなる例もある。宮崎県では6日、都城市の女性（85）が、自宅の草刈りをしようとしたところ、キイロスズメバチとみられるハチに刺され死亡した。軒下に直径約50㌢の球形の巣があり、頭部や両手の甲を中心に100カ所以上刺されていたという。

スズメバチに刺されて死亡するケースの多くは「アナフィラキシーショック」によるもの。一度刺されてできた抗体によって、2回目以降は過剰反応が起き、血圧低下や呼吸困難などの異常をもたらす。30分ほどで死ぬこともある。

鹿児島市立病院の吉原秀明救命救急センター長（49）は、救急車到着までの症状悪化を遅らせるため安静にし、横になって足を上げ、刺された箇所を15分ごとに冷やすようアドバ

イス。「短期間で2回刺された人は要注意。一度に複数回刺された場合もアナフィラキシー様反応が起きることがある。刺されたらすぐ医師の診断を受けるように」と話した。

平成24年9月24日(月) / 南日本新聞

※県内13業者が加盟している鹿児島県県ペストコントロール協会=URL

<http://www.pestcontrol.or.jp/pcga/kyusyu/kagoshima.html>